

評価者	市民生活部	奈須 菊夫
-----	-------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

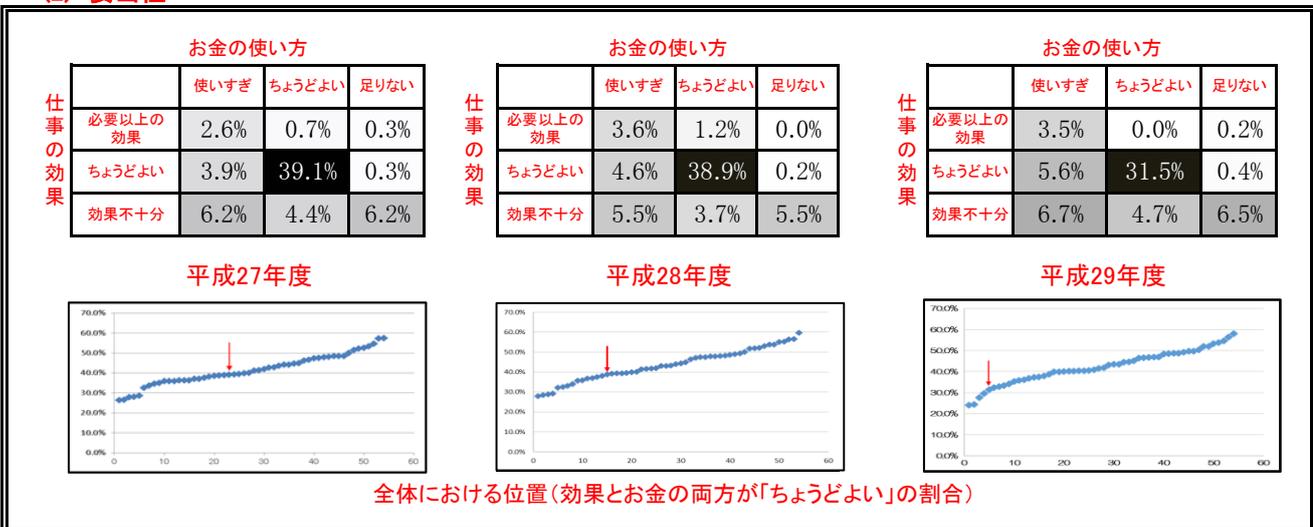
総合計画上の位置付け	分野	産業振興	施策の方針	商工業振興の充実
目標とすべきまちの姿	中小企業をはじめとする事業者が事業を継続するための支援として、経営アドバイザーの派遣や経営革新への取組に対する助成が行われ、産業が活性化しています。 また、商店街は、高齢者も利用しやすい、地域の特性を生かした商店街となり、活性化しています。 鎌倉彫の保護・育成を目的とした活動の支援や協同組合との連携による伝統工芸品の技術伝承の支援などにより、伝統工芸が伝承されています。また、事業者や組合と協働した伝統工芸の販路確保等により、売上が向上しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	29.3%	平成28年度	31.8%	平成29年度	36.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	14.1%	34.4%	10.4%	41.1%
平成28年度	11.9%	42.3%	8.9%	36.9%
平成27年度	12.6%	43.2%	8.0%	36.2%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- ①商店街の健全な運営の阻害要因の一つである商店街が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図るため、商店街共同施設設置費補助金の補助率を平成29年度から平成31年度までの3年間は1/3から1/2に引き上げ、LED化を推進する。(市民-13)
- ②平成28年度に実施した鎌倉市企業活動拠点整備事業の効果測定を行い、新たな補助制度を構築する。(市民-14)
- ③平成27年度の耐震診断により、耐震改修「要」の判定が出た鎌倉彫振興事業所の耐震改修工事を行う。(市民-16)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- ①商店街団体が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図ることで、商店街団体の活動原資を確保し、地域の特性を生かした商店街作りに寄与する。(市民-13)
- ②企業立地に資する制度を補助制度を構築することで、事業者の集積による産業の活性化に寄与する。(市民-14)
- ③鎌倉彫振興事業所の耐震改修を行うことで、伝統鎌倉彫事業協同組合の活動拠点を確保し、組合の活動に寄与する。(市民-16)

**(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)**

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
市民-10	商工運営事業	2,507	2,751	4,507	4,536	0.2	0.2		b	B
市民-11	中小企業支援事業	508,033	507,115	515,894	515,910	1.0	0.9		b	B
市民-12	商工会議所助成事業	14,667	14,667	15,545	15,476	0.1	0.1		b	B
市民-13	商店街振興事業	10,293	22,993	32,649	26,344	1.1	1.0		b	A
市民-14	商工業振興事業	30,228	8,797	19,331	47,283	1.2	1.2		b	B
市民-15	公衆浴場助成事業	550	400	1,278	1,539	0.1	0.1		b	B
市民-16	伝統鎌倉彫振興事業	2,936	24,291	26,925	6,093	0.3	0.3		b	B

**(4) 主な実施内容**

<p><b>【主な実施内容】</b></p> <p>①各商店街団体に対し、LED化の効果や市内実績に係る情報提供を行うとともに、LED化を計画している商店街団体を支援し、約65%の街路灯のLED化が完了した。(市民-13)</p> <p>②平成28年度に実施した企業活動拠点整備事業の効果測定を行い、情報通信業を営む事業者が市内にオフィスを開設する場合のリフォーム費用や賃料の一部、それ以外の業種でシェアードオフィスを新たに開設する際のリフォーム費用の一部を助成する企業立地整備費等補助制度を創設した。(市民-14)</p> <p>③鎌倉彫振興事業所の耐震改修工事を実施し、耐震基準を満たした。(市民-16)</p> <p><b>【実施できなかった事業とその理由等】</b></p>
---

**(5) 平成29年度の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
<p><b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関に資金を預託することで、効率的に制度融資を実施している。(市民-11)</li> <li>各商店街団体に対し、LED化の効果や市内実績に係る情報提供を行うとともに、LED化を計画している商店街団体を支援し、約65%の街路灯のLED化が完了した。(市民-13)</li> <li>情報通信業を営む事業者が市内にオフィスを開設する場合のリフォーム費用や賃料の一部、それ以外の業種でシェアードオフィスを新たに開設する際のリフォーム費用の一部を助成する企業立地整備費等補助制度を創設したが、利用件数が2件に留まってしまったため、更なる周知が必要である。(市民-14)</li> <li>鎌倉彫振興事業所の耐震改修工事を実施し、耐震基準を満たした。(市民-16)</li> </ul>			

**(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性**

<ul style="list-style-type: none"> <li>効果とお金の両方が「ちょうどよい」とする割合が31.5%と低く、全体における位置も低くなっていることから、事業の効果を周知していく必要がある。</li> <li>「働くまち鎌倉」の実現に向けて、中小企業支援事業、商工業振興事業を推進する。</li> <li>鎌倉彫の保護・育成のため、伝統鎌倉彫振興事業を推進する。</li> </ul>
---

**(7) 平成30年度の目標**

- ①商店街の健全な運営の阻害要因の一つである商店街が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図るため、商店街共同施設設置費補助金の補助率を平成29年度から平成31年度までの3年間は1/3から1/2に引き上げ、LED化を推進する。(市民-13)
- ②平成31年12月以降に市への寄附が予定されている資生堂鎌倉工場跡地の一部を活用する事業者の公募及び審査を行い、産業系の土地活用を継続することで、産業の活性化及び雇用機会の増大を図る。(市民-14)
- ③伝統鎌倉彫事業協同組合が実施する小中学生鎌倉彫体験学習事業に要する経費の一部を助成するとともに、開催に向けた支援を行い、鎌倉彫に触れる機会の創出を図る。(市民-16)

**(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性**

- ①商店街団体が維持管理する街路灯の電気料の負担軽減を図ることで、商店街団体の活動原資を確保し、地域の特性を生かした商店街作りに寄与する。
- ②資生堂鎌倉工場跡地の一部について産業系の土地活用を継続させることで、産業の活性化に寄与する。
- ③鎌倉彫に触れる機会を創出することで、鎌倉彫の保護・育成に寄与する。

**3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)**

整理番号	市民-13	事業名	商店街振興事業					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	商店街団体加入率						単位	%	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
支援対象が、商店街団体単位であるため。	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0					
	実績値	76.8	79.9	76.6	73.4							
	達成率	90.4%	94.0%	90.1%	86.4%							
整理番号	市民-14	事業名	商工業振興事業					単位	件	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	企業立地整備費等補助金による助成件数						単位	件	指標の傾向	↘	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
企業立地整備費等補助金による支援状況を把握するため。	目標値	-	-	5.0	5.0	10.0	10.0					
	実績値	-	-	4.0	2.0							
	達成率	-	-	80.0%	40.0%							
整理番号	市民-16	事業名	伝統鎌倉彫振興事業					単位	千円	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	鎌倉彫出荷額						単位	千円	指標の傾向	↘	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
本市で唯一の伝統工芸品産業を維持するため。	目標値	630,000	630,000	630,000	630,000	630,000	630,000					
	実績値	600,000	564,000	470,000	420,000							
	達成率	95.2%	89.5%	74.6%	66.7%							

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・「助成した」とあるものに対するお金の使途が不明である。効果的に使われたのかを判断する上でも明らかにすることが求められる。
- ・地域における就業者や職種のバランスを考えて、産業振興を行う視点が必要である。今後の鎌倉の将来を担う産業を育成する立場をとるべき。
- ・国の地方創生加速化交付金を利用し、鎌倉市企業活動拠点整備事業を実施しているが、当該事業の効果測定を行う必要がある。
- ・市内の空き家・空き店舗等を活用した企業活動の拠点整備とあるが、空き家・空き店舗の実態はどのようなものか、具体的な内容が分かりづらい。
- ・補助金等、お金に関わる補助に対する事業の効果を明らかにすべき。
- ・「商工業元気アップ事業」やその他の補助事業について、実績報告書の提出を受ける他、事業者からのヒアリングや商店街アンケートなどで状況把握に努めている、としているが、状況を把握した後、把握した状況はどこで分析しているのか。また、分析の結果どの様な対応を行っているのか。

指摘への対応、コメント等

- ・補助事業の効果・結果については、具体的な効果を検証することが難しいものや効果が出るのに長期間かかる事業もあり、すべてを明らかにすることは難しいが、定量的な評価ができるものから、具体的に示すことを検討する。
- 「働くまち鎌倉」の実現に向けて、企業立地等促進条例による税の軽減措置や企業立地整備費等補助制度による補助を実施し、鎌倉の将来を担う産業の育成に努めていく。
- ・企業活動拠点整備事業の効果測定を行い、情報通信業を営む事業者が市内にオフィスを開設する場合のリフォーム費用や賃料の一部、それ以外の業種でシェアードオフィスを新たに開設する際のリフォーム費用の一部を助成する企業立地整備費等補助制度を創設した。
- ⇒ 企業活動拠点整備事業では、事業用として活用できる物件を対象としているため、市内に多くの対象物件があるものと考えている。なお、平成29年に実施した商店街アンケートにより、商店街エリア内に34の空き店舗があることを確認している。
- ・補助事業の効果・結果については、具体的な効果を検証することが難しいものや効果が出るのに長期間かかる事業もあり、すべてを明らかにすることは難しいが、定量的な評価ができるものから、具体的に示すことを検討する。
- ・補助事業の実績報告により、補助事業の執行の確認及び補助金額の確定を行っている。
- ・商店街アンケートについては、商店街団体の組織率や景況感などの状況とともに、必要としている支援内容を把握し、以降の支援に役立てている。

### 提言

・補助金などは、支給後の用途をできる限り明確に把握し、補助による効果を踏まえた上で支給の判断をしてほしい。

・「中小企業支援事業5億円」は信用保証補助金・融資利子補給に使われているが、「法定制度」なのか。単なる補填に過ぎず商工業振興の根本的な課題解決になっていないのではないのか。

・立地条件等を検討し、IT企業、ベンチャー企業、若い人たちのやる気ある企業誘致に力を入れるべき

・平成28年度の「企業立地支援補助金助成件数4件」の業種・規模(採用従業員数等)の情報を開示してほしい。当補助金と平成29年度構築の「新補助金」は重複しないか。

・小町通りの様変わりが甚だしい。中には昔ながらの店舗も頑張っている。店舗規制をすべきではないか。

・商店の在り様も鎌倉の特色を生かした店づくりは考えられないか。

・鎌倉の伝統工芸の支援継続は必要と思われる。

### 質問

・商店街が「憩いと楽しみ場」や「地域コミュニケーションの核」等になるよう、地域の特性を生かした商店街づくりを支援するという方向性に対しての、来年度の取組目標がない。

・補助金の支給先の会社はどのような会社が多いのか。

### 提言に対するコメント等(総論)

・補助金は、事業完了後に補助事業の内容、対象となる経費を確認した上で、適切に交付している。

・中小企業支援事業で実施している制度融資、信用保証料補助及び利子補給は法定受託事務ではない。中小企業が操業する上で、運転資金や設備投資の資金融資は必要なものであり、それを支援することは有効な施策であると考えます。

・企業立地等促進条例では、製造業、情報通信業、宿泊業及び自然科学研究所を、企業立地整備費等補助制度では、情報通信業等を対象として、企業立地の促進を図っている。

・企業活動拠点整備事業により、情報通信業の活動拠点2箇所、シェアードオフィス2箇所が開設された。

シェアードオフィスについては、2箇所合せて約50席程度あり、ほぼ契約済であると確認している。平成28年度に実施した企業活動拠点整備事業は、国の交付金を活用して単年で実施したものであり、平成29年度に構築した企業立地整備費等補助制度との重複は無い。

・商工業者、商店街団体等が事業展開しやすい環境を整備することで産業振興に取り組んでいく。

・商工業元気アップ事業において、地域の資源を活用して創業する事業や新しい商品・技術の開発、サービスの提供を行う事業を支援していく。

・伝統鎌倉彫事業協同組合が行う鎌倉彫創作展や体験教室等に要する経費の一部を助成することで、鎌倉彫の振興に係る支援に取り組んでいる。

### 質問に対する回答

・各商店街団体が、商店街の特性を生かした様々な事業を実施できるよう、商店街が維持管理する街路灯のLED化を推進し、費用の負担軽減を図る。

・商店街団体等を対象とした補助金を除くと、中小企業を対象としたものが多い。

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・製造業や新規成長産業(医療福祉関連、生活文化関連、情報通信関連、新製造技術関連、環境関連など)の企業が事業展開しやすい環境の整備に努める。新しい成長分野に対する意識が芽生えつつあるのはよいと思われる。
- ・LED化の効果や市内実績に係る情報提供を行うとともに、LED化を計画している商店街団体を支援し、約65%の街路灯のLED化が完了した。
- ・資生堂鎌倉工場跡地の一部について産業系の土地活用を継続させることで、産業の活性化に寄与する。
- ・企業活動拠点整備事業により、情報通信業の活動拠点2箇所、シェアードオフィス2箇所が開設された。
- ・国の地方創生加速化交付金を利用し、鎌倉市企業活動拠点整備事業を実施した、鎌倉市企業活動拠点整備事業の効果測定を行い、新たな補助制度を構築するなどの取組は良い。

		評価の内訳								委員会の評価	
取組	↗	1	↘	0	→	6				→	
効果	○	0	△	1	—	6	⇒			—	

### 《課題》

- ・鎌倉市企業活動拠点整備事業の効果測定を行っていく必要がある。新たな補助制度を構築するなどの取組は良いと思われ、さらに進めるべき。
- ・シェアードオフィスやリフォーム費用の補助金創設により、どのような効果が現れたのか。どの程度、産業が活性化に寄与したと言えるのか。結果が知りたい。単純に、一部企業への施設整備の補助に終わらないようにしてほしい。

### 《提言》

- ・技能振興とも重なる部分があるが鎌倉彫振興支援は当然のことながら新しい鎌倉ブランドの創造、支援に力を入れてほしい。
- ・鎌倉彫の出荷額を指標に入れたことは「目標とすべきまちの姿」を目指すにあたり大事なことだと思う。しかし、達成率が年々大幅に下がっている事は評価できない。達成率を改善するための取組も見当たらないことは問題である。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある、「中小企業をはじめとする事業者が事業を継続するための支援として、経営アドバイザーの派遣や経営革新への取組に対する助成が行われ、産業が活性化しています。」について、「経営アドバイザーの派遣数」を指標とすべき。また「助成」により「改革」が行われ、活性化した事例を明記にすべき。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある、「商店街は、高齢者も利用しやすい、地域の特性を生かした商店街となり、活性化しています。」について、「地域の特性」は具体的にどの様なものであり、何をもって「活性化している」と確認できるのかを明確にし、指標とすべき。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある、「鎌倉彫の保護・育成を目的とした活動の支援や協同組合との連携による伝統工芸品の技術伝承の支援などにより、伝統工芸が伝承されています。」について、鎌倉彫は保護しなければ消滅してしまうものなのか？もしそうであれば何が原因かを明確にすべき。

### 《質問》

- ・「指標」の「商店街団体加入率」について、目標はどのように算定しているのか？また商店街ごとの増減傾向はあるのか？
- ・「指標」の「企業立地整備費等補助金による助成件数」について、「助成件数」=「新規事業参入数」なのか？